

『学校力向上に関する総合実践事業』コーナーその3

学校力向上に関する総合実践事業アドバイザー研修会が7月11日に行われました。

公開授業～4年生 (授業者 三上 牧子 教諭)

- | | | | | |
|---|-----|---------------------------------|------|---------|
| 1 | 主題名 | みんな友達 | 内容項目 | B-友情、信頼 |
| 2 | 資料名 | 「卓球は四人まで」(出典：文部科学省 小学校道徳 読み物資料) | | |

【南が丘小学校 「心に響く、心が動く道徳の時間の授業」】授業において意識した7つの工夫

① 資料の活用・提示工夫

朝学習の時間を活用して、紙芝居型(挿絵の裏に資料を貼りつけた物)で資料を提示し、考え(書き)、議論する時間を確保する。また、導入段階で3枚の挿絵を見ながら場面をしっかりと把握し、内容を理解して心情を想像しやすいようにする。さらに、今回は資料をすべて提示はせずに、最後の場面は挿絵だけを見せ、どんなやり取りがあったのかを想像させることで、子どもたちの思考にゆさぶりをかけるようにする。

② 導入の工夫

導入では、アンケート結果をもとに「友達と遊ぶことの楽しさ」や「友達とうまく関わることができなかった経験」について話し、価値への意識づけをさせる。それから、3枚の挿絵を掲示する。

③ 展開前段の工夫

展開前段では、主人公「しゅん」の心情の変化について3枚の挿絵をもとに確認したあと、読み物の続きとなる場面の挿絵(4人で卓球をしている場面)を提示し、4人がどんな気持ちで卓球をしたかワークシートに記述させる。「楽しみ度」の度合いを心のものさしで表現させ、その理由も記述させることによって、相手の気持ちに立って考えることの大切さや、特定の仲良しだけでなくみんなで遊ぶことの楽しさを考えるようにさせたい。

④ 展開後段の工夫

展開後段では、「心が動く授業」とするために、資料から離れ、「4年生の目もりを百点満点にしよう大作戦!」のためには、どんなことが大切かを考える時間とする。自分の考えをもち、話し合いを行うことで、自己を見つめ直したり、友達の考えのよさに気づいたりする活動とする場面にしたい。また、友達の考えを聞くことで自分の考えと比較して、よりよい方法を考え、深めるための場面としていきたい。



⑤ 終末の工夫

終末を「本時を振り返る活動」とし、友達と互いに理解し合い、友達を大切にしようとする心情を高めていきたい。振り返りを行うことで、1単位時間の授業での価値への考え方の変化や思いを知る場面としたい。

⑥ 板書の工夫

主題に対する場面ごとの思考の変化がわかるような板書とする。また、挿絵と心のものさしの掲示物を準備し、主人公「しゅん」の心情の変化を捉えやすいように工夫する。



⑦ 評価の工夫

価値理解・人間理解・他者理解・自己理解の4点を継続的に行い、どのような変化があるかを記録する用紙を活用し、評価に生かす。また、評価を適切に行うために、授業中の見取りを行う評価補助簿(本時の育てたい力を明記し、意識して授業を行うもの)を用意する。

授業を終えて

北海道教育大学教職大学院 教授 水上 丈実 氏 より

- ・グループ学習で、より価値理解を深めるためには、前段の時間の短縮が必要となること。
- ・児童に考えさせるといふ点から、導入段階でのアンケートの活用では、指導者が解説するのではなく、児童に情報を与えるだけでもいいのではないか。
- ・指導者の価値理解への教材研究。4年生段階の「友情・信頼」とは、どこまで理解させるのか? 「思いやり・親切」と何が違うのか等、学習指導要領解説をしっかりと読む必要がある。
- ・児童が価値をしっかりとできるための指導者の発問の工夫。
- ・今回の学習で身についたことを、事後の生活のどの場面で役立てているのか、見取っていく。



今回、多くの方々から頂いたご指導、ご助言を胸に、来年度実施の「特別の教科 道徳」に向けて、南が丘小学校全教職員で研修をより深めて参ります。